

企業景況調査報告書

(令和5年7～9月期)

< 目次 >

質問1 調査の概要・結果概要	1
質問2 直面している経営上の問題点	2
質問3 人員の充足状況について	3
質問4 意見等自由記載欄	4
DI集計結果・分布	5
調査票様式	6

倉吉商工会議所

倉吉市明治町 1037-11

TEL 0858-22-2191

FAX 0858-22-2193

Email cci3103@kurayoshi-cci.or.jp

倉吉商工会議所企業景況調査報告書（2023年7～9月）

調査対象企業

倉吉市内の商工会議所会員企業 105 社
 （建設業 22 社、製造業 19 社、卸売業 12 社、小売業 23 社、サービス業 23 社、その他 6 社）

調査方法

各事業所に FAX にて返信依頼。

調査時期

令和 5 年 10 月上旬～令和 5 年 10 月中旬

回収状況

93 社（回収率 88%） ※前回（4～6 月）93 社
 （建設業 22 社、製造業 16 社、卸売業 10 社、小売業 19 社、サービス業 21 社、その他 5 社）

業種別の業況 DI は、今期は 4 業種で下降、来期は 3 業種で上昇する見通し

<今期の状況>（5 ページ表参照）

今期の全業種の業況 DI は、前年同期比で前期の 1.2 から 14.9 ポイント下降し、▲13.7 となった。業種別に見ると、それぞれ建設業は▲4.7（前期 0）、製造業は▲12.5（前期 21.0）、卸売業は▲44.4（前期 30）、小売業は▲11.1（前期▲6.3）、サービス業は▲10.0（前期▲15.8）、その他の業種は▲40.0（前期▲40.0）で、4 業種で下降、1 業種で上昇、1 業種で横ばいとなっている。

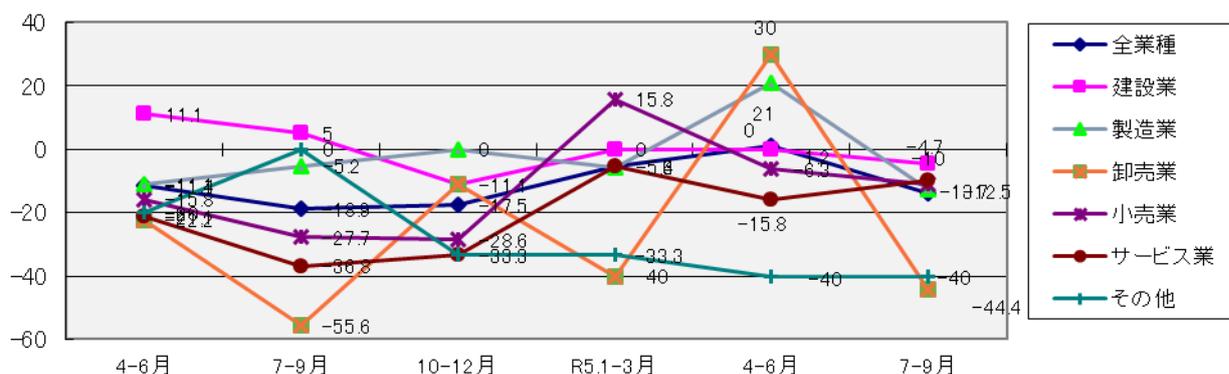
<来期の見通し>（5 ページ表参照）

来期の見通し（2023 年 10～12 月）では、全業種の DI 値は前期の▲8.1 から上昇し、▲3.6 となった。業種別に見ると建設業は 0（前期▲5.2）、卸売業は 0（前期▲20.0）、サービス業は 0（前期▲26.3）と 3 業種で上昇する見通しとなった。一方で、製造業は▲18.8（前期 10.5）、小売業は▲6.7（前期▲6.3）と下降、その他の業種は 0（前期 0）と横ばいの見込みである。

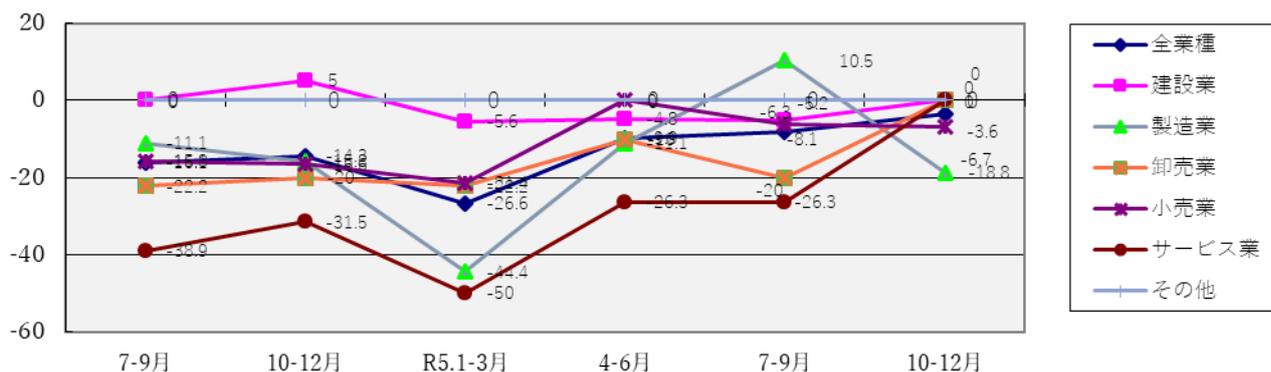
経営上における課題としては、「原材料・仕入価格上昇」、「人手不足」、「経費の増加」が前回に引き続き全業種で上位に挙げられた。製造業では、前回上位に挙がらなかった「売上・受注減少」が 1 位に挙がっている。また、前回に比べて経営上の問題点が多様化しており、「売上・受注の減少」や「消費・需要の停滞」など、物価高や経費の増加が影響した買い控えが原因とみられる項目も目立つ結果となった。

<業況判断 DI の推移> ※今期の DI 値集計結果については P5 をご参照下さい。

(1) 今期の状況 <業種別>



(2) 来期の見通し<業種別>



質問2 直面している経営上の問題点（上位3点を回答）

01 競争激化 02 消費・需要の停滞 03 売上・受注減少 04 売上・受注単価低下
 05 原材料・仕入価格上昇 06 原材料・在庫不足 07 原材料・在庫過剰
 08 店舗・生産設備不足・老朽化 09 店舗・生産設備過剰 10 経費の増加 11 人手不足
 12 人手過剰 13 利益率低下 14 代金回収難 15 資金繰り難 16 新分野進出
 17 その他:具体的に()

〔上位項目〕

※（ ）内は件数

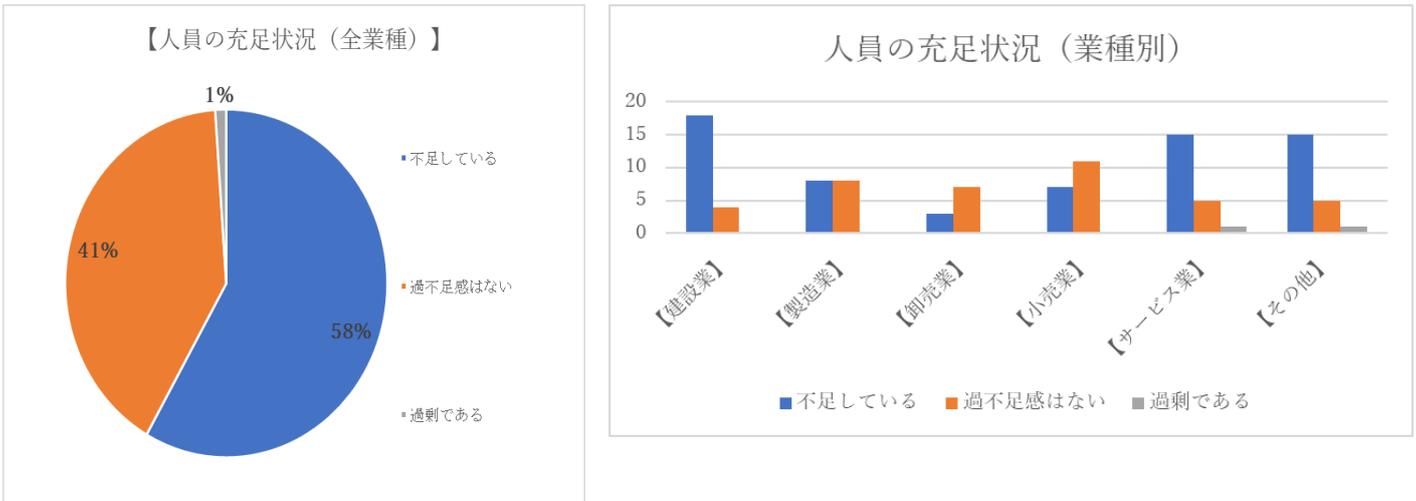
分類		1 位	2 位	3 位
全業種	当 期	原材料・仕入価格上昇 (43)	人手不足 (38)	経費の増加 (34)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (51)	人手不足 (38)	経費の増加 (30)
建設業	当 期	原材料・仕入価格上昇 (16)	人手不足 (11)	利益率低下 (7)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (14)	人手不足 (13)	売上・受注減少 (7) 経費の増加 (7)
製造業	当 期	売上・受注減少 (8) 原材料・仕入価格上昇 (8)	店舗・生産設備不足・老朽化 (6) 経費の増加 (6) 人手不足 (6)	競争激化 (3)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (12)	店舗・生産設備不足・老朽化 (9)	人手不足 (8)
卸売業	当 期	競争激化 (6)	消費・需要の停滞 (5) 売上・受注減少 (5)	原材料・仕入価格上昇 (4) 経費の増加 (4)
	前 期	競争激化 (6)	原材料・仕入価格上昇 (5)	消費・需要の停滞 (4)
小売業	当 期	消費・需要の停滞 (8)	売上・受注減少 (7)	経費の増加 (6)
	前 期	消費・需要の停滞 (8)	原材料・仕入価格上昇 (7)	店舗・生産設備不足・老朽化 (5) 経費の増加 (5)
サービス業	当 期	原材料・仕入価格上昇 (10) 人手不足 (10)	経費の増加 (8)	売上・受注減少 (5) 店舗・生産設備不足・老朽化 (5) 利益率低下 (5)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (9)	経費の増加 (8) 人手不足 (8)	利益率低下 (6)
その他	当 期	売上・受注減少 (3) 経費の増加 (3)	競争激化 (2) 人手不足 (2)	消費・需要の停滞 (1) 原材料・仕入価格上昇 (1) 利益率低下 (1) その他 (1)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (4)	経費の増加 (3) 人手不足 (3)	消費・需要の停滞 (1) 利益率低下 (1) その他 (1)

17 その他

- ・経験者不足、育成
- ・2号店の経営形態について
- ・事業承継

質問3 人員の充足状況について

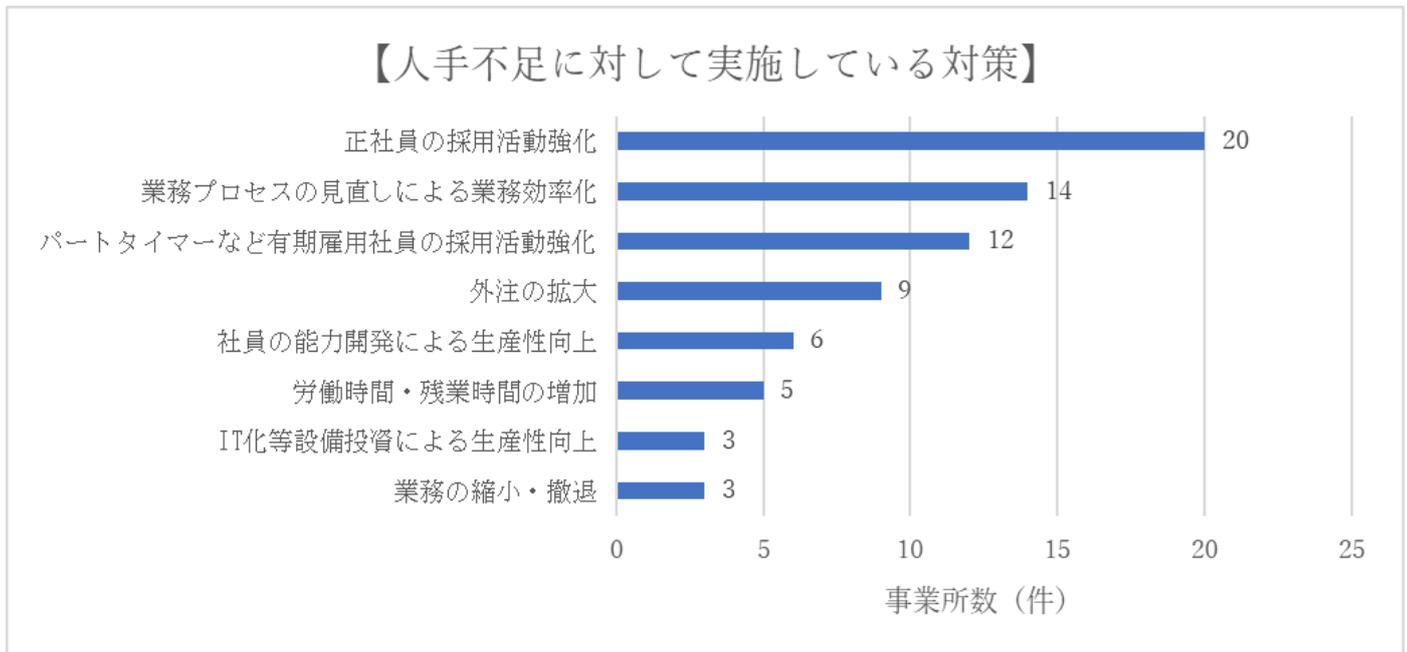
人手不足を実感している企業は全体の6割弱



全業種の人員の充足状況（上記左図）については、「不足している」が58%と回答した企業の半数以上が人手不足を肌で感じている結果となった。業種別の人員の充足状況（上記右図）を見ると、特に建設業で「不足している」と回答した企業と「過不足感はない」と回答した企業の差が大きくなっている。次いで、飲食店などのサービス業も人手不足を実感している企業が多い。建設業では、技術者不足を深刻な課題として挙げている企業が目立ち、育成にも時間がかかることから、人手不足の早期改善は難しいと考えている企業もみられた。

また、製造業については人手不足を感じている企業とそうではない企業が二極化している状況となっている。一方で、卸売業と小売業は「過不足感はない」と感じている企業の方が多く、業種によって人員の充足状況に大きな違いがあることがわかる。

人手不足の影響に関する回答は、「現在の人員でやりくりしている」と回答した企業が全体の半数近くにのぼっていた。しかし、一方では「事業運営に支障がある」と回答した企業も全体の15%もあり、今後の事業運営に不安を抱えている企業も多数見受けられた。



人手不足への対策（上図）を見ると、正社員やパートタイマーなどの採用活動強化や、業務プロセスの見直しや外注の拡大による業務効率化に主軸を置いている企業が目立つ。近年は、補助金や税制優遇の制度を利用しながら設備投資を行う企業も増えており、今後も引き続きその動きが活発になると予想される。

質問4 現在の景況感、経営上の問題点についての意見又、行政等への要望について

【建設業】

- ・収益率の低下を売上高が増加したことで補えているような状況です。技術者不足が深刻で、従業員（技術系）の負担が年々重くなっていると感じています。
- ・資材値上がり、油代、2024年問題等、頭が痛いことが多くある。
- ・ここ数年、当社に限らず業界全体として高齢化による引退、激務によるモチベーションの低下など特に次代を担う労働者が少ない。新卒募集をしてもほとんど応募がなく、たとえ入社をしても長続きしてない状況があることをよく耳にする。若年層の労働に対する意識（価値観）が以前とまったく違うのを感じている。
- ・技術者不足、従業員の高齢化など問題点は山積み。

【製造業】

- ・人の動きはあるが、物価高の影響で買い控えを感じる。
- ・猛暑の影響を感じます。少し涼しくなってきたので期待したい。
- ・コロナ禍での仕事量減少に伴い、人員を補充しなかった、できなかった結果、売上は減少。5類移行後は補助金もなくなり、電気代、ガソリン代、人件費の高騰、仕事量はさらに少なくなり、新規事業を行おうにも人手が足りず改善が見通せない。廃業を視野に入れた同業者も複数社ある。

【卸売業】

- ・人手はOKだが人材が…

【小売業】

- ・水道光熱費の高騰
- ・物が値上がりし続けているので、買い控えはあると思う。目先の補助金や対策ではなく、時間がかかってももっと根本な部分からの改革を国に求めます。
- ・今現在の心配事は事業継承問題です。商工会議所等の皆さんのご尽力で今模索中です。

【サービス業】

- ・売上、収益ともに改善の見通しなし。行政は厳しいという発言を控えるべき。明るい未来がないと思っている。人員を増やして無理な営業をしても意味なし。労働者側の向上心も見られない。
- ・売上は悪くないが、人件費（最低賃金）のUP、仕入高の上昇が厳しい。
- ・当社は、土木技術関連のサービス業ですが、中部地区の高校に土木（建設）専門の学科が無くなってしまっていますが、復活させていただきたいと思います。鳥取県中部地区には、建設会社等の産業がかなり多いと思います。これらの産業の、雇用確保のためにも必要であると思います。
- ・飲食においては、物価高の影響で外食を控えているように思われます。消費税減税をしてほしい。

D I 集 計(前年同期比=2022年7~9月期、来期の見通し=2023年10~12月期)

【製造業・非製造業別】

	1. 売上高		2. 売上単価		3. 収益状況	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	2.3	-4.7	35.2	30.2	-20.2	-12.7
製造業	-12.5	-26.7	62.5	25.0	-6.3	-31.3
非製造業	5.5	0.0	29.2	31.5	-23.2	-8.4

	4. 資金繰り		5. 借入難度		6. 雇用人員	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-2.2	-5.8	2.2	-1.1	5.6	3.5
製造業	-12.5	-31.3	-6.2	-13.3	6.2	-6.3
非製造業	0.0	0.0	4.0	1.5	5.4	5.6

	7. 業況判断	
	前年同期比	来期の見通し
全業種	-14.6	-4.7
製造業	-12.5	-18.8
非製造業	-15.1	-1.4

【業種別】

	1. 売上高		2. 売上単価		3. 収益状況	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	2.3	-4.7	35.2	30.2	-20.2	-12.7
建設業	14.3	14.3	25.0	30.0	-9.6	-9.5
製造業	-12.5	-26.7	62.5	25.0	-6.3	-31.3
卸売業	10.0	0.0	30.0	50.0	-30.0	-11.1
小売業	-17.7	-13.4	29.4	26.6	-29.4	-18.8
サービス業	20.0	0.0	35.0	30.0	-20.0	0.0
その他	-20.0	-20.0	20.0	20.0	-60.0	0.0
非製造業	5.5	0.0	29.2	31.5	-23.2	-8.4

	4. 資金繰り		5. 借入難度		6. 雇用人員	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-2.2	-5.8	2.2	-1.1	5.6	3.5
建設業	-4.8	-4.7	14.2	9.5	4.7	0.0
製造業	-12.5	-31.3	-6.2	-13.3	6.2	-6.3
卸売業	0.0	0.0	-10.0	-11.1	10.0	10.0
小売業	16.7	6.6	5.5	-6.7	5.5	13.3
サービス業	-10.0	0.0	0.0	5.0	5.0	5.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業	0.0	0.0	4.0	1.5	5.4	5.6

	7. 業況判断	
	前年同期比	来期の見通し
全業種	-14.6	-4.7
建設業	-4.7	0.0
製造業	-12.5	-18.8
卸売業	-44.4	0.0
小売業	-11.1	-6.7
サービス業	-10.0	0.0
その他	-40.0	0.0
非製造業	-15.1	-1.4

※DI値

売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表します。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。

したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、**強気・弱気などの景気感の相対的な広がり**を意味するものです。
 $DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

事業所名： _____ (お手数ですがご記入をお願いします。)

㊞

倉吉商工会議所企業景況調査票(2023年7~9月期)

調査元：倉吉商工会議所 TEL:22-2191

FAX:22-2193

【質問1】前年同期と比較した今期(2023年7~9月)の状況と、今期と比較した来期(2023年10~12月)の見通しについて、最も近いものに○印をお付けください。

1) 売上高	(前年同期比)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
	(来期の見通し)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
2) 売上単価	(前年同期比)	1. 上昇	2. 不変	3. 低下
	(来期の見通し)	1. 上昇	2. 不変	3. 低下
3) 収益状況	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
4) 資金繰り	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
5) 借入難度	(前年同期比)	1. 容易	2. 不変	3. 困難
	(来期の見通し)	1. 容易	2. 不変	3. 困難
6) 雇用人員	現在の従業員数	人(うち正規雇用者 人)		
	(前年同期比)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
7) 貴社の業況	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化

【質問2】今期直面している経営上の問題点について、重要度の高い順に該当する番号を回答欄へご記入ください。

- | | |
|------------------|-------------|
| 01 競争激化 | 10 経費の増加 |
| 02 消費・需要の停滞 | 11 人手不足 |
| 03 売上・受注減少 | 12 人手過剰 |
| 04 売上・受注単価低下 | 13 利益率低下 |
| 05 原材料・仕入価格上昇 | 14 代金回収難 |
| 06 原材料・在庫不足 | 15 資金繰り難 |
| 07 原材料・在庫過剰 | 16 新分野進出 |
| 08 店舗・生産設備不足・老朽化 | 17 その他：具体的に |
| 09 店舗・生産設備過剰 | () |

回答欄

1位 _____

2位 _____

3位 _____

【質問3】経済活動の活性化や高齢社会の到来によって、人材不足への対策が急務となっています。それに関連して以下の質問にご回答ください。

1. 貴社における人員の充足状況について該当するものひとつに○を記入してください。

- ① () 不足している ② () 過不足感はない ③ () 過剰である

2. 【1で①と回答した方】貴社における人手不足による影響について(複数回答可)

- ① () 事業運営に支障がある(納期遅れや品質の低下) ② () やむを得ず事業を縮小・廃止した
③ () 事業の拡大を見送った ④ () 新規事業の立ち上げを見送った
⑤ () 現在の人員で工夫してやりくりしている ⑥ () 具体的な影響はない
⑦ () その他 ()

3. 【1で①と回答した方】人手不足への対策として貴社が実施・検討している取組について(複数回答可)

- ① () 正社員の採用活動強化 ② () パートタイマーなど有期雇用社員の採用活動強化
③ () 外注の拡大 ④ () IT化等設備投資による生産性向上
⑤ () 社員の能力開発による生産性向上 ⑥ () 業務プロセスの見直しによる業務効率化
⑦ () 労働時間・残業時間の増加 ⑧ () 事業の縮小・撤退
⑨ () その他 ()

【質問4】現在の景況感、経営上の問題点についての意見又、行政等への要望についてご記入ください。